

# Interview #01

\*2024年3月インタビュー

2024年3月所属：工学研究科 物質科学専攻  
(卓越大学院プログラムDII/名古屋大学融合フロンティアフェロー/  
日本学術振興会特別研究員)  
2024年4月所属：住友化学株式会社



## 工学研究科 星野 聖奈 さん

### これまでやってきた研究の概要を教えてください

化合物半導体の硬さ・強度を評価する研究です。理論計算を用いて、半導体の硬さの起源や強度を向上させる方法について日々研究していました。

### この春からはどういう仕事をする予定ですか？

詳しい業務内容は配属後に決まりますが、配属場所は茨城県日立市の工場の予定です。そこで扱っている部門を調べた範囲では、化合物半導体のウェーハの製造・開発に関連する業務かなと推測しています。

### 就職が決まった背景は？

もともとDIIでお世話になっていたのが住友化学子会社のウェーハを作っている会社の方で、こういう人が活躍している会社に行きたいと思っていました。その会社は親会社の住友化学に吸収合併されたのですが、そのまま選考を受けられることになり、内定をいただきました。研究を通して関わった人を通して、社風・研究内容などを深く知ることができたので、「ここなら大丈夫だ」という安心感を持てたのは博士学生ならではの経験だと思います。

### キャリア形成にあたって活用したこと、在学中に経験してよかったことを教えてください。

私はもともと文章を書くことに苦手意識がありましたが、フェローやDC2など様々な申請書類を提出することで文章力が鍛えられました。また、「企業と博士人材の交流会」などの機会を通じて誰にでも分かりやすく伝える能力が磨かれました。色々なプログラムを経験することで、自分を成長させることができたと思います。

確かに、「企業と博士人材の交流会」では、就職先だけではなく、他企業からの評価も受け、優秀賞を取られましたね。開催後にもたくさんの企業からお声がかかったと思います。

### 大学院の講義である「エンプロイアビリティ」では、異分野の多様な人と新たなアイデアを作って、さらにその後にはそれを実装されておられましたね。

「エンプロイアビリティ」はすごく大きなきっかけになりました。初めて座学ではないフィールドワークに行くことができ、博士の研究が予想以上に社会の役に立つことを実感できたと同時に、「アカデミアの中で審査に受かったり賞を取ったりしても、世の中には波及できない」と思うきっかけ、及びモチベーションになりました。

### 就職活動で評価されたであろうと思うことはありますか？

学部生のように「就活だ！」と集中的に取り組むというより、人との縁を大切にしていたら、それが結果的に評価に繋がったのだと思います。選考活動外でのコミュニケーションも含めて、総合的なスキルや人間性を評価していただいていたような気がします。

### 後輩たちにエールをお願いします。

博士課程は個人プレーで頑張ることも多く、自分との闘いという声も周りから聞きますが、だからこそ“周囲の人間をとにかく巻き込もう”をエールの言葉として残したいと思います。申請書の文章にしても、研究の考察にしても第三者からのアドバイスが突破口になることはよくあることです。また、やる気があるのに自分の裁量や能力ではどうすることができないという場面でも、ある人を通したら途端に解決したり、いい話を持ってきてもらえたりすることもしばしば。目線を外に向け、周りの人に頼りながら自分でチャンスを得ていくことが何事においても成功の秘訣だと思います。